

第2回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 26年 12月 8日 (月)

時間 午後 2 時から

場所 市民ホール(弥富市役所隣3階)

○議 事

1. 開会

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今から、平成26年度 第2回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。 ・私、本会議の議事進行、座長を務めさせていただく、公益財団法人豊田都市交通研究所の山崎である。
------	---

2. 弥富市長挨拶

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に、本協議会の会長である服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・大変お忙しい中、第2回弥富市地域公共交通活性化協議会にご出席いただき感謝する。 ・先週は、蟹江インター付近に中部第一輸送があり、皆さんもご承知だと思うが、大きな火事があった。今、この地域における朝・夕の交通体系がすっかり狂ってしまったかと思う。商売をされている方、あるいは通勤途上の方においてはご迷惑をおかけしている。私ども、蟹江町との連絡のなかにおいては、壁を取り壊す作業を進めている。もう間もなく解除できると伺っているので、よろしく願います。 ・また、弥富市内でも火事があった。どうか皆様方、このような時期でもあるので、火の元には十分気をつけていただきたいと思う。 ・きんちゃんバスを平成22年度から実証運行を開始して以来、皆様方のご意見等により、毎年いろんな形で改正を繰り返してきた。市民の皆様の方として、より利用していただくように改善を加えてきた。まだまだ、たくさんの課題がある。この議題においても皆様方からご意見を伺いながら、事業が速やかにいくようにお力添えをいただきたいと思う。よろしく願います。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、資料の確認をお願いする。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の確認 会議次第 資料1：第2回 弥富市地域公共交通活性化協議会 (資料) 資料2：平成26年度事後 (自己) 評価 (案) 配席表

3. 議題

(1) 地域公共交通の現状分析等について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題に入る。 ・本日の議題は3つある。まず「地域公共交通の現状分析等について」、現
------	---

	<p>在の利用状況、今年度実施してきた調査の結果について、事務局より報告をお願いします。</p>
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・議題 (1)「地域公共交通の現状分析等について」資料を基に説明する。 ○資料説明 ・目次にある「1. 地域公共交通の現状分析」から「2. 上位・関連計画」「3. 問題点・課題の整理」まで 66 ページのボリュームとなるが、今年度実施した調査結果についてのみ説明する。 ・まず、利用実態調査結果について、11 ページ目から説明する。 ・11 ページは平成 22 年度から平成 26 年 10 月末までの全ルートの利用者数の推移を示しており、全ルート計の一日平均乗車人員は昨年度よりも減少している。 ・また、平日、休日別の一日平均乗車人員でみると、平日は減少しているが、休日は増加している。 ・12 ページの北部ルートは、全ルート計と同様に、全体としては減少しており、平日、休日別でも平日は減少しているが、休日は増加している。 ・13 ページの南部ルートは、平日・休日ともに減少している。 ・14 ページの東部ルートは、平日・休日ともに増加している。 ・続いて、15 ページでは、上段に一日平均乗車人員を、下段に一便あたり平均乗車人員を整理している。 ・下段の一便あたり平均乗車人員については、南部ルートを除いて増加していることが伺える。 ・19 ページからはルート別便別の一日平均乗車人員であり、北部ルートでは 1 便、4 便の利用者が多くなっており、7 便や 9～11 便で利用者が少なくなっている。 ・20 ページの南部ルートでは、平日は 1 便と 5～10 便の利用者が多くなっており、3 便と 13～15 便の利用者が少なくなっている。 ・また、土曜日は 2～7 便の利用者が多くなっており、1 便と 9～10 便の利用者が少なくなっている。 ・21 ページの東部ルートでは、平日は 1 便の利用者が少なくなっており、土曜日は全便同程度の利用者となっている。 ・22 ページからは 7/7 月曜日からの 1 週間に全てのバス車内で実施した利用者乗降調査 (OD 調査) の結果となる。23 ページに回収率が 98.3% とほぼ全員のデータが得られたこと、24 ページに利用者属性について、75 歳以上の割合が多く、高校生以下の利用はほとんどが南部ルートとなっているといった利用者属性を示している。 ・25 ページに利用目的として、全体では「公共施設利用」が最も多く、「買い物」も多くなっている。ルート別では、北部ルートは「買い物」、東部ルートは「通院」、南部ルートは「公共施設利用」が多くなっている。 ・26 ページは乗り換えの状況として、最も多く乗り換えが行われているのは北部ルートと南部ルートの間となっており、木曾岬町自主運行バスとの乗り換えも 3 件あるが、飛島公共交通バスとの乗り換えはこの調査期

	<p>間中には見られなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 27 ページには、乗降する停留所のパターンとして、20 件以上を赤色、15 件以上を紺色で示しており、移動件数が多いのは、「間崎公園」「鍋田公民館」「杉本クリニック」から「近鉄弥富駅南口」への移動で、「近鉄弥富駅南口」や「弥富市役所」、「総合福祉センター」を中心とした移動が多くなっている。 ・ 28 ページには、バス停別乗降者数を示しており、「近鉄弥富駅南口」が最も多く、以下「弥富市役所」「イオンタウン」「総合福祉センター」「いこいの里」の順で多くなっている。 ・ 続いて、少し飛び、35 ページをご覧ください。 ・ 平成 23 年度以降毎年度実施している無料お試し乗車券の配布結果を整理している。 ・ 36 ページから配布結果となっている。 ・ 今年度は全世帯及び小学生に配布し、利用期間の 8 月 1 ヶ月間で 1,033 枚が利用されている。 ・ 配布期間中のきんちゃんバスの利用状況を見ると、全ルート計では、昨年度と比較して利用者数が少なくなっており、ルート別では北部ルート、東部ルートで増加しているのに対し、南部ルートで減少している。 ・ 38 ページに無料お試し乗車券の利用者年齢層を示しており、小学生に配布したことや利用期間が 8 月ということもあり、「小・中学生」の利用が増加している。 ・ 39 ページには無料お試し乗車券配布以前のきんちゃんバス利用の有無について整理しており、これまでにきんちゃんバスを利用したことが「ない」人のうち、今回の無料お試し乗車券により、初めてきんちゃんバスを利用した人、すなわち新規利用者は、62.4%（98 名）となっており、昨年度よりも増加している。 ・ 41 ページには、利用バス停について整理しており、「近鉄弥富駅南口」の利用が最も多く、以下「イオンタウン」「弥富市役所」「佐古木駅」「海南病院」の順で多くなっている。 ・ 続いて、少し飛び、46 ページをご覧ください。 ・ モニタリング調査として実施した利用者アンケート調査の結果について整理している。 ・ 7～8 月の間バス利用者のべ 468 名に配布し 252 名から回答を得ており、回収率は 53.8%となっている。 ・ 48 ページに回答者の属性、49 ページに利用状況、利用頻度、50 ページに利用目的など、51 ページにはきんちゃんバスを利用して市役所本庁舎を訪れる頻度について整理している。 ・ 52 ページの満足度としては、「非常に満足」と「やや満足」を合わせた「満足」が 42.2%となっており、「非常に不満」と「やや不満」を合わせた「不満」の 21.5%よりも多くなっており、昨年度と比較すると「不満」が減少し、「満足」が増加している。
--	--

- ・また、不満な理由としては、「本数が少ない」「朝や夕の便がない」「バス停がない・遠い」などが多くなっている。
 - ・53 ページの回数券、定期券、シルバーパスの利用状況については、半数以上が無料で利用できる 75 歳以上となっているが、昨年度と比較すると「いずれも利用していない（現金で利用している）」及び「回数券を利用している」が減少し、「無料で乗車できる（75 歳以上）」「シルバーパスを利用している」「定期券を利用している」が増加している。
 - ・また、サイクル&バスライド駐輪場利用状況については、無回答のほか、「利用できることを知らなかった」も多くなっている。
 - ・54 ページの東部ルート¹の飛島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎについては、無回答や東部ルートを利用していない方を除くと、「変わらない」が 11.1%と最も多くなっており、昨年度と比較すると「非常に便利になった」と「やや便利になった」を合わせた「便利になった」が 6.4%となっており、昨年度の 3.2%よりも増加している。
 - ・また、バス停までの距離については、昨年度と比較すると「徒歩 10 分以内」や「徒歩 10 分以上」が増加している。
 - ・55 ページの今後のきんちゃんバスの運行維持、運行費用と利便性のバランスについては「今のままでよい」が 55.2%と最も多く、「便利にするためには、費用がかかってもかまわない」も比較的多くなっており、昨年度と比較すると「今のままでよい」が増加し、その他は減少している。
 - ・続いて、また少し飛び、65 ページをご覧ください。
 - ・現在、市役所本庁舎の改築が計画されており、改築工事中は本庁舎機能を十四山支所に一時移転される予定となっている。あくまでも現時点での計画であるが、機能移転は平成 29 年 1 月から概ね 2 年間を予定されている。
 - ・次に、66、67 ページにこれまでの概要を整理し、課題として大きく 5 点あげている。
 - ・1 点目は「将来を見据えた、公共交通による生活交通サービスの維持」として、公共交通の必要に関する共通認識、車両のバリアフリー化、環境対応車両の導入、がポイントになると考えられる。
 - ・2 点目は「ニーズに即した運行改善」として、地域特性や利用特性に応じた運行改善、車両サイズの見直し、乗り継ぎの改善、市役所本庁舎機能移転期間の運行方法検討、がポイントになると考えられる。
 - ・3 点目は「適切で継続的な情報提供による利用促進」として、分かりやすい情報提供や、継続的な利用促進策の展開と周知、がポイントになると考えられる。
 - ・4 点目は「地域で守り育てる体制の展開検討」として、サポート体制の継続的展開、地域協働の取組み促進、がポイントになると考えられる。
 - ・最後の 5 点目は、「次のステップに向けた新たな目標と計画」として、新たな地域公共交通総合連携計画の策定、がポイントになると考えられる。
- 以上で議題（1）地域公共交通の現状分析等の説明を終える。

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・かなりボリュームのある資料で、毎年度いろんな調査をやっているが、今年度やってきた調査や状況について、事務局から報告いただいた。 ・何かご意見、ご質問等はあるか。
加藤委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、私どもの役員会や理事会等の中で、非常に話題としてあがってくるのが、最近のきんちゃんバス関係のウエイトが高い。内容を聞くと、私の地域でも同じだが、老人世帯が北の方は確かに比率が高いようだが、南の方も多くなってきた。 ・息子さんたちが、おじいちゃん、おばあちゃんの運転が危ないのでやめてほしいということで悩んでみえた。公共交通の問題もあるが、やはり、万が一事故を起こして、自分たちだけで解決できず、息子さんたちに被さってくるということもあるので、息子さんたちの言うことを聞いて生活してもらいたいとお願いするわけだが。そういう中で、公共交通のデータは全く同じである。老人が悩んでいる。 ・24 ページに年齢別の利用者が書いてあるが、老人の方の利用が非常に多いことが記されているし、別のところでは買い物や病院といった利用目的も多い。バス停に近いところの利用が高いという話もあった。正直言って、年間相当なお金を費やしている。そういう中で、何が理想なのかは非常に難しい。 ・公共交通の中で地域を活性化することからすると、やはり利用を高めることが当然、主催者側の目的になる。こういった目的を達成する中で、本数が少ない、バス停が遠い等クリアしようと思うと当然、バスの台数を増やさなければならないとか、いろいろな問題がある。 ・朝一番と昼前の利用が非常に高い。そういった中で、今あるバスをどう活用して利用を高めていくかという問題も、これから皆さんで協議していただいて、我々老人も非常に利用価値の高いバスにしていきたいと思う。 ・状況というのが最近、変わってきた。10年も経たないうちに、5年も経つと相当、きんちゃんバスの利用については我々高齢者からすると、非常に注目度が高い。生きていくための、生活していくための手段として、こういったことを高く受けとめなければならないし、利便性についても協議いただかなければならないと思う。 ・今のバスだけでクリアするのか、例えば、85 歳以上の高齢者については、もっと別の形で、交通の足を充てがっていただくとか、今後ご協力をお願いしたい。我々、老人も今後どんどん増えるし、今の要求がもっと高いものになってくると思うので、よろしく願います。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・コメントは質問ではなくて、ご意見でよろしいか。
加藤委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・切実な問題である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今のご意見に対して、事務局からあるか。
加賀委員 (区長会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃっていることは切実な問題であることは認識している。2023 年、すなわち団塊の世代が 75 歳になるのが 2023 年以降で、おそらく急激に

	<p>老人が増える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 65 ページに地図があるが、非常に興味深くみていた。効率的に相互乗り入れが定着するかどうか。もし、定着しなければ木曾岬とほぼ並行に走っているのが相互に乗り入れれば、もっと有効に使えると思うし、蟹江の方から来ている飛島も弥富を通過しながら来るような方向をとられるとよいと思う。 ・ この辺りもすぐに決められる問題ではないが、委員会をつくってバス停の場所を検討するとか、料金体制を見直すとか、そうすればきめ細かく、利用価値が出てくると思う。2023 年後は、もっともっと大変な時代になると思う。ご検討をお願いします。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局からいかがか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体間の連携については、協議会の中で一部調査させていただいて、検討させていただいた時期もある。今回、この場にも飛島村様、木曾岬町様の各部署から来ていただいているが、こういった意見も納得いく部分もあり、自治体間それぞれバス運行を実施しているが、広域なバス運行を連携、将来的には検討していく必要があると考えている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局側としても、自治体間の連携の必要性を考えている。これまでも何度か考えてきたと思う。検討していただきたいと思う。 ・ 他にいかがか。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 65 歳から 75 歳というのは前期高齢者であり、これから非常にボリュームが高くなっていく世代である。地域公共交通の中で、有料でバスを運行させていただいているが、75 歳以上は無料である。この辺りところの年齢を下げるには、一番ボリュームのあるところに対して、どういう利便性を我々としては提供していくかということも、一方では考えていかなければいけない。 ・ せっかく運行しているが、乗っていただいている人数は非常に少ないということもあるので、市民の足として公共交通バスが利用されることが一番望ましいと思う。一度、議論いただきたいが、仮に 75 歳という年齢を 10 歳下げた場合において、どのような需要予測がみられるかということもやっていかないといけないと思っている。 ・ 大変、国土交通省さんには言いづらいが、地域公共交通がスタートした時は、非常に多額の補助金をいただいた。1,900 万円なり、一番多い時は 4,900 万円という補助金があったが、現在では 1,000 万円ほどの補助金という状況になっている。当初は、全体の 1/2 の補助とも言われていたが、厳しくなっている。 ・ 国土交通省さんが、地域公共交通をどのようにご理解をいただいて、私たち地方のバスの路線が廃止されたところに対して、利便を図っていただけるかをお願いしていきたい。議題と違うかもしれないが、コメントをいただけると有難い。今後の地域公共交通に対する国の考え方はどうなのかというところをコメントいただきたい。
後藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変、厳しいお言葉をいただいた。予算はおっしゃる通り、年々縮小さ

(愛知運輸支局)	<p>れている。ただ今回、まだ決まっていない。財務当局は概算要求をしていて、昨年度からアップした 363 億円と、昨年度よりも多くの公共交通に関する予算を要求させていただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後ほどの議題に出てくると思うが、新しい「連携計画」。今では法が変わり、「地域公共交通網形成計画」という名に変わったが、頑張っている自治体様には、いろんな制度を活用していただくような制度設計を国土交通省で作っていると聞いている。来年度の補助制度がどうなるかはわからないが、一生懸命、制度設計している最中である。以上が回答になったかどうかわからないが、情報提供だけさせていただいた。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・一点だけ補足したい。データの中で、11 ページからのところで、一日あたりの平均乗車人員が減ってきたという報告があったが、取り方としては1便あたり平均乗車人員が伸びてきているので、いっぱいいっぱいなのかもしれない。データの見方として、比較しているデータが4月～10月までの半年の平均値で1年間ではない。他の年度は1年間の平均値なので、当然、月変動があるから、単純に比較することはできない。他の年度も4月～10月で比較してみると、同じ期間で季節変動を考慮して比較できると思う。そういったデータも必要ではないか。 ・他によろしいか。 ・先ほどの補助金等の話は、また後ほどの議題で見直していきたいと思う。

3. 議題

(2) 弥富市地域公共交通総合連携計画について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題 (2) 弥富市地域公共交通総合連携計画について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・議題 (2) 「弥富市地域公共交通総合連携計画について」資料を基に説明する。 <p>○資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・63ページに弥富市地域公共交通総合連携計画の概要について記載している。きんちゃんバス運行開始の平成22年度から平成24年度の3年間を実施期間とし、「市内バス運行の改善・充実」「生活交通の確保・充実」「環境への対応」を基本方針にその後も計画を継続している。 ・議題 (2) 弥富市地域公共交通総合連携計画については、昨年からの協議会の中では、まちづくりと一体で地域公共交通ネットワークの形成をするため「弥富市地域公共交通網形成計画」を策定するという事業計画となっていた。こちらについては、先日の12月3日に「改正地域公共交通活性化再生法及び改正都市再生特別措置法等の説明会が開催され、6つの基本方針や交通網形成計画の記載事項等についての説明があったところであるが、本市としては上位計画である「弥富市総合計画」や「弥富市都市計画マスタープラン」の目標年次（平成30年度）であることや国においては、都市計画（まちづくり）と地域公共交通が一体となりコンパクトなまちづくりを進めていくという方向性が示された。 ・これらのことを踏まえ、次期の「弥富市総合計画」や「弥富市都市計画

	<p>マスタープラン」の作成検討に合わせ、当市のまちづくりと地域公共交通を一体的に検討し、「地域公共交通網形成計画」を策定することとし、それまでの間は「第2期弥富市地域公共交通総合連携計画」を策定し、地域公共交通の確保・維持に努めていきたいと考えるので、よろしく願います。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局側としては、当初は法改正に合わせて「地域公共交通網形成計画」を策定していく事業計画があったが、いろいろ考えられて、「都市計画マスタープラン」、「総合計画」の目標年次は平成30年であるので、当面、今から30年までの間は、「形成計画」を策定せずに、現行の「連携計画」を改めていく。 これに関しては事業計画に掲載されているので、承認していただかなければいけない。ご意見をいただきたい。
後藤委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> 今ある「連携計画」の期間を延長して、30年度まで延長するというご意向なのか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> 22年度から24年度について、現況に合わせて見直しをさせていただき、新たに計画年度を策定して、「第2期」として策定させていただきたいと考えている。
後藤委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> もちろん「形成計画」をつくるというのは義務ではなく、つくることができるということなので、法的に問題はない。ただ、「活性化再生法」は改正した関係上、「連携計画」は法律に基づいた計画という後ろ盾がなくなってしまうということだけのご理解いただきたい。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> 「連携計画」を新たに策定していかないと、国土交通省のビジョンを満たしていない。よって、補助額等に影響があるということはないか？
後藤委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> 補助制度については、先ほども申し上げたように、この場では何も言えない。今、折衝中である。ただ、新たなどころには新たな新制度を活用していただける。逆に言うと、「形成計画」を策定していないところは利用できない補助制度があるという制度設計にしていると聞いている。 今あるフィーダー制の補助は、伝え聞いた話だが、そのまま継続されると聞いている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 運行費補助に関しては継続なので、「連携計画」を新たに見直したとしても、法による後ろ盾がなくなってしまうが、それとは別で運行費補助はしばらく継続される。
後藤委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> 継続されると聞いているが、確約できるものではない。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> そういった状況の中で事務局としては、今ある計画を遂行し、その方針でいこうと考えている。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> 事務局としては、今説明させていただいた通り、「第2期連携計画」を考えている。現在、補助メニューの中では「生活交通ネットワーク計画」を策定させていただいて、フィーダー系統の補助メニューを申請させていただいているわけだが、「連携計画」からの目標から「生活交通ネットワーク計画」を策定させていただいて、事業を進めさせていただいた

	<p>いと考えている。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • 全体の流れとしては、ゆくゆくは今の法に基づいて「交通網形成計画」を策定していかなければならない。 • 30年を目標とは言っているが、ひょっとしたら期間を縮めて、その途中でもそちらに移行していくようなことも考えているのかなと思う。国が期待しているところとしては、都市計画サイドを変更していかないといけない。 • 今、この場に都市計画課の方はおみえになっていないが、別々に進めていくものではないので、都市計画サイドと一緒に協賛会をもたないといけないと思う。
加賀委員 (区長会長)	<ul style="list-style-type: none"> • いずれ変えるのなら、早めにやった方がよろしいのではないかな。大変な作業なのか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> • 今の段階では、まちづくりと市の公共交通を合わせた将来像を描くという部分が、今年度も時間的にも難しい部分があり、すぐ策定できるという状況でない。 • 将来的にまちづくりは長い目と言われるが、庁舎内、各部署それぞれ集まって検討し、方向性等決めさせていただいて、計画の策定に向けて進めていきたいと考えている。
加賀委員 (区長会長)	<ul style="list-style-type: none"> • 素人があまり、とやかく言うべきことではないが、国がこういう方針でいくと作業を振られているのだから、それに従ってやっていくのが、予算面でもあらゆる面でもよろしいのではないかな。いずれ、やらないといけない。大変な作業量かもしれないが、努力していただくと言うしか言いようがない。
事務局 (橋村)	<ul style="list-style-type: none"> • 今回については、作業できる時間等もないので、引き続き、第2期の連携計画をスタートさせていただいて、準備ができた時点で検討を重ねながら変更できればと思っている。
浅田委員 (交通対策課)	<ul style="list-style-type: none"> • 他の県内の市町村でも、来年度早々から「形成計画」をつくるという話をいくつか聞いている。そういったところも参考にさせていただいて、来年度4月からということではなく、例えば、年度の途中でもいいと思う。先ほど、委員の方がおっしゃられた様に、補助を受けるためには「形成計画」が必要になってくるという流れの中で、早めにつくった方がいいのかなと、県の立場でもあるので、一度ご検討いただければと思う。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろご意見いただいたが、今回については、こちらがご提案させていただいた「連携計画」の見直しということで、「第2期地域公共交通総合連携計画」を策定させていただいて、私どもで議論させていただき、まちづくりと一体的な考えを進めさせていただく。この調整がついた段階で「形成計画」へ移行すると考えていきたいと思う。今回については、「連携計画」の策定を進めさせていただければと考えている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • ゆくゆくは「形成計画」に移行する必要がある。この内容すべてご破算してしまうわけではないので、ベースになる考え方や、やっていくことは変わらないはずである。

	<ul style="list-style-type: none"> ・事業としては「連携計画」をつくり直すということで進めていく。その後、検討を進めて、目標年次を平成 30 年に設定をするのだが、そこもまだわからない。今後、状況を見て「形成計画」を策定していく。 ・皆さん、ご了承いただけるか。
加藤委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・どういう方向で地域の皆さん方にご利用いただくかという利用度を高めることは、なかなか難しいことはよくわかるが、市長さんをお願いしたいことがある。 ・この会議はこの会議でいいと思うが、今の「連携」という言葉の意味がわからない。例えば、木曾岬さんと弥富ということになってくると、木曾岬さんの交通関係というと、鉄道の利用で弥富の駅ということもあるでしょうし、老人がよく使う海南病院の問題もあるでしょう。飛島さんからしてみれば、鉄道でいうと蟹江へ行かれる方が多いが、そういうことでは即結びつくほどはないかもしれない。しかし、足のない方がお医者さんに通うということになると、やはり海南病院のウエイトが相当高いような気がする。 ・市長さんにと申し上げたのは、例えば、木曾岬だと県が違うという問題もあるし、飛島さんはいろいろなことでご協力いただけることがあると思うが、我々の会議で理想論を打ち出して意見を言ってもかみ合わないところもあると思う。 ・「連携」の 3 市町村を広域的に運営するという組織をもう一度見直しができないだろうか。それが絶対だとは言わない。少なくとも、今あるバスが、それぞれの市町村を足すと相当なバスの台数にもなるだろうし、効率的な運用も高まってくるような気がする。 ・市長さんをお願いしたのは、行政的な兼ね合いが大きい課題だと思うので、今から検討委員会を行政の中で進めていただいて、将来の方向づけも並行的に行政でご検討いただくこともお願いしたい。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日も皆さま方にご参加いただき、地域公共交通活性化協議会は運営する以上は開催していかなければならない。皆さまに議論いただき、弥富市全体のバスに対して改善を加えるということが協議会の趣旨である。これを運営させていく以上は、この協議会は存続をしていかなければならない。 ・地域連携の中での、木曾岬町さんや飛島さんとの話は、お互いがそういう課題を持っている。私どもが一度、お話を両町村にさせていただいて、どのようなお考えであるかというところから話をしていくのも、ひとつの方法だと思っている。少し時間をいただきながらみていくことも大事かと思っている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局でまとめている「第 2 期弥富市地域公共交通総合連携計画」について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (横江)	<p>○資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 68 ページから第 2 期弥富市地域公共交通総合連携計画を記載している。まず、4-1 計画期間について、上位計画である「弥富市総合計画」や「弥

	<p>富市都市計画マスタープラン」の目標年次（平成 30 年度）を踏まえ、平成 27 年度からの 4 年間（平成 30 年度）とすることを考えている。なお、本計画は、各上位計画の見直しや社会情勢の変化等に合わせて、適宜必要な見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 69 ページには基本方針と地域公共交通の連携の考え方を整理している。 ・ 「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」をテーマとして、高齢者や地球温暖化など、将来にわたる暮らしの安心の確保を目標としている。 ・ 具体的には、使いやすく効率的で、持続可能な地域公共交通への発展のために地域特性や利用者特性に応じた継続的な改善を行うほか、継続的な情報提供、市民・行政・交通事業者等の協働・連携を掲げている。 ・ さらに、基本方針の実現に向けて、広域的な移動手段としての鉄道、使いやすい市内の移動手段としてのきんちゃんバス、それぞれの乗り継ぎ環境改善による利用促進や利便性の向上を図る。 ・ また、市、市民、交通事業者の役割を明確にし、参画と協働による取り組みを行う。 ・ 70、71 ページには、先ほどの基本方針に基づく目標と取り組みを記載している。 ・ 目標としては、「利用者数の維持」として最低限 1 便当たりの乗車人員の現状維持、継続的な改善と利用促進による増加を目指す。また、「利用者満足度の向上」として、現在の利用の中心となっているのは高齢者であるが、買い物や通院、通勤・通学に利用されるなど、多様な方が利用しルートによっても利用特性が異なる。誰もが使いやすい地域公共交通であるためには、これら利用特性や地域特性に応じた的確で継続的な改善が必要となる。そこで、継続的な改善を総合的に評価する指標として利用者の満足度を把握し、その向上を図る。 ・ 取り組みとしては、 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域特性や利用特性に応じた運行改善、車両更新時における適正な車両サイズへの見直しによる効率化や市役所本庁舎機能移転期間の運行方法検討 ◆ 75 歳以上への無料パスカードの配布や定期券、回数券、シルバーパスの販売により、料金負担の軽減による利用促進 ◆ 周辺自治体と連携した乗り換え環境の改善やサイクル&バスライド駐輪場の設置による乗り換え利便性の向上 ◆ 車両更新時におけるバリアフリーや環境に配慮した車両の導入、ノーマイカーデーの実施による人と環境にやさしい地域公共交通への改善 ◆ 分かりやすい時刻表、ポケット時刻表の作成、配布や乗り換えバス停への乗り換え時刻表掲示、市・周辺自治体 HP へのきんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報掲載 ◆ 認知度向上による利用促進 ◆ 地域で創り、支える仕組みづくり
--	---

	<p>などを位置づけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、これらの取り組みについて実施スケジュールなどを検討していく。 <p>以上で議題（2）第2期弥富市地域公共交通総合連携計画の説明を終える。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期弥富市地域公共交通総合連携計画について、ご意見、ご質問はあるか。
富山委員 （愛知県バス協会）	<ul style="list-style-type: none"> ・議案で審議するのは、4年間の計画としてということか、あるいは、先生がおっしゃったように、できるだけ速やかに「形成計画」に移行する前提の下の合意なのか。 ・加藤会長さんがおっしゃられたように、新しい計画のことを考えると広域連携が入ってきているので、できるだけ速やかにされたほうがいいと思う。年度が明けたら、補助のスキームも出てくると、説明会で国の方も言ってみえたので、その辺も踏まえてご検討されるといい。かなり大事なことだと思うので、慎重に議論されたほうがいいのではないかと。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日、提示していただいているものは、今日、決議するとかいうものではない。 ・新たな「連携計画」をつくるのは6月ぐらいを目途に考えているので、今日はいろいろな意見をいただく。当然、先ほどの「形成計画」にもっていきことを考えなければいけない。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・結論から言うと、基本的には速やかに「形成計画」に移行した方がいいという皆さんのご判断なので、私たちも努力してやっていかなければいけない。4年間継続して「連携計画」を引っ張っていくことは得策ではないということが結論である。
加賀委員 （区長会長）	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードが命である。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局、そのようにしっかりとお願いする。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・了解である。 ・「連携計画」策定に向けて、もう一度検討していただく。 ・他によろしいか。

3. 議題

(3) 平成26年度事後（自己）評価（案）について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題（3）平成26年度事後（自己）評価（案）について、事務局から説明をお願いします。
事務局 （横江）	<ul style="list-style-type: none"> ・議題（3）「平成26年度事後（自己）評価（案）について」資料を基に説明する。 <p>○資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、弥富市においては、「地域公共交通確保維持改善事業」のうち、「地域内フィーダー系統確保維持事業」による補助を受けており、事後・自己評価として、指定の様式に基づいて整理したものとなっている。この事後・自己評価は、来年1月中旬までに運輸局の愛知運輸支局さんへ提出することとなっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の目指す姿としては、「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」としている。 ・続いて、2 ページ目は事業の評価についてである。 ・記載項目としては、左から①補助対象事業者名、②事業概要、③前回の事業評価結果の反映状況、④事業実施の適切性、⑤目標・効果達成状況、⑥事業の今後の改善点となっている。 ・①補助対象事業者は、三重交通（株）となっている。 ・②事業概要は、弥富市内を巡回する 3 路線（北部ルート、東部ルート、南部ルート）を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセス。また、東部ルートは飛島公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有と整理している。 ・③前回の事業評価結果の反映状況は、昨年度の事業結果を踏まえ、平成 25 年 10 月に下記のダイヤ改正を実施し、北部ルートの朝・夕の時間帯の利用の少ない便の削減（効率的な運行）、飛島公共交通バス蟹江線に合わせた、東部ルートのダイヤ変更（乗り継ぎ利便性の向上）を行っている。 ・④事業実施の適切性は、計画通り、モニタリング調査（利用者アンケート）を実施し、できる限り利用実態やニーズの把握に努めていること。また、協議会を計 3 回開催するとともに、広報誌や市 HP で調査結果の情報提供に努めており、適切に実施していることを踏まえ A 評価としている。 ・評価基準については、A 評価は事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された・されているということになっています。 ・「⑤目標・効果達成状況」については、「満足度の向上」と「1 便あたり乗車人員の増加」という 2 つの目標を掲げていた。 ・「満足度の向上」については、モニタリング調査の結果から、「非常に良い」「やや良い」の回答が 44.4%と、前年度の 40.3%よりも増加している。 ・また、「1 便あたり乗車人員の増加」については、前年度から全体としては増加しているが、ルートにより減少している状況であるので、評価としては「目標を達成できていない点があった」ということで B 評価としている。 ・「⑥事業の今後の改善点」については、先ほどの議事（1）地域公共交通の現状分析等についての問題点・課題の所で説明させていただいた内容を記載している。 ・また、次年度の目標としては、これまでと同様に「満足度の向上」と「1 便あたり乗車人員の増加」という 2 つの目標を掲げている。 ・3 ページ目以降は自己評価の概要を整理したものとなっている。こちらは、先ほどの 2 ページ目を補足するような形で、少し詳細に整理したものとなっている。 ・3 ページ目には、「①協議会が目指す方向性（Plan）」ということで、地
--	--

	<p>域の特性や総合計画・都市マスでの位置づけについて整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 ページ目には、「②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス (Do)」ということで、今年度の取り組みの内容を時系列で整理している。平成 26 年 7 月 14 日～の欄、「予約制運行の導入に関するアンケート」の記載は、昨年度の実施した内容がそのまま残っているので、削除をお願いする。 ・5 ページ目には、「③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価 (Check)」ということで、目標に対する結果などを整理している。 ・ここで、右下の 1 便当たり乗車人員の表や、右上の乗車人員の推移のグラフについては、この補助制度の年度が 10 月から翌年の 9 月までの 1 年間となっている。一方で、先ほど (1) 地域公共交通の現状分析等について説明したものは 4 月から翌年の 3 月を 1 年度としているのでご留意いただきたい。 ・最後の 6 ページ目には、「④自己評価から得られた課題とその対応 (Action)」と「⑤アピールポイント」を整理している。 ・アピールポイントについては、無料お試し乗車券の配布による、利用のきっかけづくりについて整理している。 <p>平成 26 年度事後 (自己) 評価 (案) については、以上である。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度事後 (自己) 評価 (案) について、ご意見、ご質問はあるか。
福田委員 (民生委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・私たち各種団体から参加させていただいている本人たちが、バスを使ったことがない。立派な会議の席ではなくて、各種団体の何かの時に、乗った人のアンケートが多くて、なぜ使わないかというアンケートが出ていないと思う。乗っていない人たちが「どうしてあなたたちは乗らないのか？ どうしたら乗るか？」と、単純に小さな会議で話し合ってみたらどうだろうか。 ・もし参考になる意見があって、取り入れられることがあれば取り入れていただくのがよい。役所の方たちが、絶対的にこうした方がいいのではないかという方に進んでいると思う。使う人はアンケートに答えられるが、「こうだから私は使わない」という意見が反映されていないと思う。女性の会の方も福寿会の方も市長さんもみえる。そこでどうしたら使うと思う？ という雑談的な意見でもいいので、次の会議までに持ち寄れたらどうでしょう。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局いかがか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートだが、今年度は利用者に調査させていただき、利用者限定して実施させていただいた。今年度以前については、平成 21 年度から 25 年度までについては、住民アンケートで無作為に 2,000 名程度、利用する方・利用されない方、わからない状況で、アンケートを取らせていただいて、その結果を踏まえて改善等を進めさせていただいた。そちらのアンケートについても、来年度やり方についても検討していき

	<p>たいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の団体さんの会議の中で、バス等の検討をして、そういう意見を参考に取り入れて検討したらいかがということだが、庁舎内で調整させていただいて検討していきたいと思う。今すぐを実施するというお約束はできないので、検討していきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> アンケートではわからない部分もいっぱいある。なぜ乗らないのと言われて、不便だからと。皆さん、車に乗れるから車と比べたらバスは勝てないし、バスは乗らないになってしまう。いろんな集まりの中で、一度乗ってみましょうというのが大事かと思う。 事務局としては、一度乗ってみましょうということを進めるために、無料のお試し乗車券を継続して5年ぐらいになる。各団体で一度乗ってみましょうということをやっけていただいて、意見を聞いていただけるといいかなと思う。
福田委員 (民生委員)	<ul style="list-style-type: none"> 取り入れていただく、いただかないは別である。市民の声として少しでも聞いていただけたらと思う。
事務局 (橋村)	<ul style="list-style-type: none"> 今年だったか、女性の会の方が「市内を回る会」ということで、きんちゃんバスを利用して、時間を調整して、行きは何時に乗って、帰りは何時に帰って来ていただくという企画を立てていただいて、実際にバスに乗っていただいた。そういったこともあるので、事務局からご報告させていただいた。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 他にいかがか。
後藤委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> 国はお節介で、本来こんな様式まで国が用意して、評価をしていただくと、そんなことをするまでもなく自主的にやっていただくものであると思う。何もなしではまずい、やりにくいだろうと思い、この白黒の方は国土交通省が補助を受けられている協議会のために作ってとお願いしているものである。カラー刷りの方は、白い紙1枚では評価しにくいと思い、カラー刷りは運輸局が用意させていただいた。PDCAタイプで計画から実施、チェックから改善へと1枚ずつ、用紙を作ってくださいようお願いした。 1点、お尋ねしたい。カラー用紙の1枚目だが、右にバスの路線図がある。現行のバス路線図だと思うが、現行の「連携計画」の中で将来の路線図はないか？
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> 第1期の連携計画においては、個別に一部こういう部分というのはあるが、全体像でこういう将来像をもってきたいという部分についてはない。
後藤委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ここには、将来図を載せていただいて、協議会が将来どういうことをしてきて、どういうチェックをして、どういう改善をしていくかというのが趣旨である。なければ現在のままで、ほぼ完成に近いものだと置きかえる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 他にいかがか。 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価（一次評価）結果報告に関しまして、ご承認いただけるか。

委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	・異議なしということで承認されたので、事務局で進めていただきたい。

3. 議題

(4) その他

山崎議長	・議題(4)その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (横江)	・特にない。
山崎議長	・ここまで含めて、何か言い残したことはあるか。 ・議題はこれですべてである。 ・事務局から連絡事項はあるか。
事務局 (横江)	・次回の第3回協議会は、3月を予定している。日程が決まり次第、皆様にご案内させていただくので、よろしく願います。

4. 閉会

山崎議長	・以上で、第2回弥富市地域公共交通活性化協議会を閉会する。 ・今後ともご協力をお願いします。
	以上